

3 月 14 日に和梨部会・ラ・フランス部会が合併し、ナシ部会となりました。よって、今回から両品目の防除情報をナシ特報として発行いたします。両面で記載していますので、裏面までよくお読みください。

3 月に入り高気圧が接近し、気温は平年を上回っています。このまま推移すれば、発芽は平年より早まると予想されます。ただし、生育は 3 月の気温帯により大きく前後しますので、生育状況をよく観察し適期防除と早め早めの作業に努めましょう。

ハダニ類・カイガラムシ類の初期密度を減らすうえで、今回の薬剤散布は重要です。散布量は多めに設定するとともに、金ブラシで削り落す等の耕種的防除も積極的に実施しましょう。

◆ 南水発芽調査（調査地点：田麦）

年度	平年	H22	H23	H24	H25
発芽期	4/6	4/5	4/16	4/15	4/5頃



1、和梨 発芽前の散布（石灰硫黄合剤体系とキノンドーフロアブル体系を記載しています。下記をよく読み、いずれかを選択してください。）

～キノンドーフロアブル体系～

散布日	月	日
散布量		リットル

1. 散布時期：発芽直前（3 月中下旬）

2. 散布薬剤：水 98 リットル
キノンドーフロアブル 100ml
スプレーオイル 2 リットル

3. 対象病害虫：ハダニ類、カイガラムシ類

4. 散布量：10a 当り 300 リットル

～キノンドーフロアブル体系注意事項～

- ① 温暖・無風の時に散布する。
- ② せん定の切り口（傷跡）には必ずトップジンMペー
ストを塗る。
- ③ 混用順は、キノンドーフロアブルにスプレーオイル
を加用し、よく攪拌すること。

～石灰硫黄合剤体系～

散布日	月	日
散布量		リットル

1. 散布時期：発芽直前（3 月中下旬）

2. 散布薬剤：水 88 リットル
スプレーオイル 2 リットル
石灰硫黄合剤 10 リットル

3. 対象病害虫：ハダニ類、カイガラムシ類

4. 散布量：10a 当り 300 リットル

～石灰硫黄合剤体系～

- ① 温暖・無風の時に散布する。
- ② せん定の切り口（傷跡）には必ずトップジンMペー
ストを塗る。
- ③ 石灰硫黄合剤は隣接するハウスビニールには極
力かからないようにする。
- ④ 混用順は、スプレーオイルに石灰硫黄合剤を加用
し、よく攪拌すること。
- ⑤ 前年度、カイガラムシ類発生園は、この散布の前
に金ブラシ等で削り落しましょう。



発芽期
樹全体で短果枝の20
～30%の花芽の苞が
割れ、緑色が認めら
れた日。

2、和梨 発芽 7 日後の散布（りん片脱落直前）

散布時期：りん片脱落直前（4 月中旬）

散布薬剤：水 96.7 リットル
Ic ボルドー48Q 3.3kg

対象病害虫：（黒斑病）、黒星病

散布量：10a 当り 300 リットル

散布日	月	日
散布量		リットル

注意事項

1. 散布時期が遅れたり、散布直後に降雨があると薬害を生
じることがあるので注意する。
2. 収穫中の作物への飛散に充分注意する



りん片脱落期
樹全体で短果枝の花
芽のりん片が20～30
%脱落した日。

ラ・フランスの定期防除は裏面をご覧ください。

ラ・フランス（西洋梨）

☆ラ・フランス発芽調査（調査地点：田麦）

年 度	平年	H 2 2	H 2 3	H 2 4	H 2 5
発 芽	4／4	4／4	4／1 5	4／1 3	4／3頃

3. 西洋梨 発芽前の散布 他_の隣接する園地に飛散しないよう注意する。

＊トップジン M 水和剤体系と石灰硫黄合剤体系を記載しています。下記をよく読み、いずれかを選択して下さい。

～トップジンM水和剤 体系～

散布日 月 日

散布量 リットル

1. 散布時期：発芽前（3月下旬）

2. 散布薬剤：水 98ℓ

展着剤 10ml

トップジンM水和剤 100 g

スプレーオイル 2ℓ

3. 対象病害虫：ハダニ類、カイガラムシ類
腐らん病、黒星病、胴枯病

4. 散布量：10a 当り 300ℓ

◎注意事項

①天気の良い温暖・無風の日を選び、幹・枝にていねいにたっぷりと散布する。

②薬剤の調合にあたっては、トップジン M 水和剤を先に溶かし、スプレーオイルを後から加えて、よく攪拌する。

～石灰硫黄合剤 体系～

散布日 月 日

散布量 リットル

1. 散布時期：発芽前（3月下旬）

2. 散布薬剤：水 88ℓ

スプレーオイル 2ℓ

石灰硫黄合剤 10ℓ

3. 対象病害虫：ハダニ類、カイガラムシ類
腐らん病、黒星病、胴枯病

4. 散布量：10a 当り 300ℓ

◎注意事項

①石灰硫黄合剤は隣接するハウスビニールには極力かからないようにする。

②天気の良い温暖・無風の日を選び、幹・枝にていねいにたっぷりと散布する。

③薬剤の調合にあたっては、スプレーオイルを先に水に溶かし、石灰硫黄合剤を後から加えて、よく攪拌する。

4. 当面する重点作業

- (1) 粗皮ケズリ
輪紋病対策として、いぼ皮の削り取りを行なってください。
輪紋病の発生源を減らすことが重要です
- (2) 腐らん病の点検と病斑の治療及びせん定の傷口への癒合剤の塗布
・せん定の際に見つけた病斑は必ず削り取り、癒合剤(トップジンMペースト等)を塗布する。
・胴枯病予防・枯れ込み防止・癒合促進のため、せん定後の切り口にも必ず癒合剤を塗布する。特に主幹部の傷口の保護を徹底しましょう。
- (3) 枝の誘引
・次年度花芽の着生促進や側枝を強くしないためにも、必ず実施しましょう。
・折れやすいので注意する。(時期的には発芽期以降が良い)
・特に普通樹の若木は、主枝を30度（ラ・フランス）～45度（オーロラ）に誘引する。